



日進北小だより

令和2年11月2日

第8号

電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～



「桃太郎はなぜこの三匹を仲間にしたのか。」

校長 平塚 信也

先日、新聞に「桃太郎はなぜこの三匹を仲間にしたのか。」と題する広告が載っていました。全面を使った広告でしたから目にした方もいらっしゃると思います。その広告には桃太郎がなぜ、犬、猿、キジという一見バラバラの三者を仲間にしたのか。そこには、桃太郎の明確な戦略がありそうです。おそらく桃太郎は、チームに多様性を取り入れ、ある種のケミストリーを起こそうとしたのではないのでしょうか。最初は合わないこともあったかもしれませんが、でも、心を開き、認め合うことができれば、個性の違いはお互いを高め合うきっかけになります。違うから視野が広がる。発見がある。成長できる。強くなれる。これからの多様性の時代に、私たちが学ぶべきことがあるような気がします。

という文章がつづられています。ケミストリーとは調べてみると「化学反応」というような意味であることが分かりました。人と人とが反応し、連携し合い、チームとして高い能力を発揮することかなと考えました。これは小学校生活にも当てはまると思います。

校舎内をまわっていると廊下に図工の絵や工作が飾られています。一つ一つも素晴らしいのですが、クラス全員分が掲示されていると、その全員分で一つの作品に思えてきます。また、同じ題材であってもなんとなくクラスごとの個性が感じられることがあります。これも一人ひとりの個性が影響し合って何かを生みだしているのかなと思います。

公立学校ですから、いろいろな性格の子どもがいます。いろいろな考え方の保護者がいます。いろいろな環境で育った子どもがいます。たまたま同じ地域に住み、同じ年に生まれた関係で同じ教室で学び、同じ学校に通っています。でも、このいろいろな子どもが偶然集まっているという環境が大事なのです。自分と同じ年齢でも、いろいろな子どもがいて、彼にはできることが自分にはできない。でも自分にできることが彼にはできない。人にはそれぞれ得意、不得意がある。好き嫌いが違う。などを学び、違いを認め、お互いを尊重できるように成長します。また、低学年のうち、友だちから教わること、友だちに教えること自体が喜びで、教える・教わるが自然にできます。友だちと交わるという体験を積み重ね、対人関係を学んでいきます。小学校時代の体験があればこそ、社会に出ても職場の同僚や上司と生き生きと交わり、仕事を教えてもらい、仕事を教えてあげることができるようになります。そして化学反応を起こし、それまで以上の力が出せるようになるのだと思います。

一人ひとり違いはあっても大切な宝です。皆様方には、日進北小学校全児童800人の保護者でいていただきたいと思います。教職員一同も一人ひとりの良さを見つめ、一人ひとりにあった指導を目指します。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

すてきなあいさつBOXから

あいさつカードの掲示場所がなくなったので、少しずつお返事を書いて返却することにしました。引き続き募集しています。